羽陽学園短期大学紀要　第11巻　第４号（通巻42号）2022年２月
Bull. of Uyo Gakuen College, Vol.11, No.4, February 2022

保育現場の新型コロナウイルス感染症対策の現状について（第２報）

－食事場面の配慮について－

小　田　幹　雄　　幼児教育科
橋　浦　孝　明　　小田原短期大学　通信教育部

（2021年10月１日受理）

〔　要　　約　〕

現在も続くコロナ禍において保育現場では食事場面でどのような配慮を行っていたのか宮城県と山形県の保育施設を対象として調査を実施した。その結果、「感染症対策の曖昧さ」や「子どもに感染症対策を求める難しさ」を感じているとともに「子どもの育ちに対する不安」、「職員への負担」も大きいようであった。これまで通りの食事や食育は難しく、基本的な感染症対策に加え、「子どもが使用する食具や調理器具は個別の物を用意する、自分で調理し、喫食すること」、「子どもが実際に調理したものではなく、事前に購入したものや給食室で調理したものを食べること」、「活動は少人数のグループを入れ替えながら行う、対面にならないよう子どもの作業場所や喫食位置をずらす、グループ毎の活動時間をずらすこと」が必要となる。今後も最善の対策に近づくために各園の取り組みを共有し、自園では考えられなかったより良い対策を積み重ねていくことが重要となる。

キーワード：新型コロナウイルス感染症対策、食事場面、食育

１．はじめに

2019年12月に新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が中国で初めて確認され、WHO（世界保健機関）は翌年３月11日、パンデミック（世界的大流行）に相当すると発表した。その後各国でワクチン接種が進んでいるものの世界全体で感染者数は２億人、死者数は450万人（2021年９月30日現在）を超える等、今なお感染拡大の勢いは衰えていない[1)]。

日本においても新型コロナウイルス感染症は変異株の影響もあり、発生場所は多様化し、保育現場でも各地でクラスターが発生している状況である。日本全体が長期間にわたって感染拡大を防ぐために、飛沫感染や接触感染、さらには近距離での会話への対策をこれまで以上に日常生活に定着させなければならない中、特に食事場面においての感染リスクの高さが懸念されており、日常生活において最も感染対策を講じなければならない場面となっている。

一方、保育現場においては食育の重要性が叫ばれている。厚生労働省が公表した楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針～[2)]では現在をもっともよく生き、かつ生涯にわたって健康で質の高い生活を送る基本としての「食を営む力」の育成に向け、その基礎を培うことが保育所の食育の目標とされた。そして、期待する子ども像として「お腹がすくリズムのもてる子ども」、「食べたいもの、好きなものが増える子ども」、「一緒に食べたい人がいる子ども」、「食事作り、準備に関わる子ども」、「食べ物を話題にする子ども」の５つをあげている。さらに翌年の2005年に制定された食育基本法[3)]では食育を生きる上での基本であり、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものと位置付けており、中でも子どもに対する食育は、心身の成長及び人格の形成に大きな影響を及ぼし、生涯にわたって健全な心と身体を培い豊かな人間性をはぐくんでいく基礎となるものとしている。

また、幼稚園教育要領[4)]や保育所保育指針[5)]、幼保連携型認定こども園教育・保育要領[6)]の領域「健康」の内容に明記されているように、保育者や友達と食べることを楽しみ、食べ物への興味や関心をもつことは非常に重要であり、食育は保育の一環として位置付けられ、子どもの育ちを支える食育の重要性が示されている。

そのため保育現場では様々な食育活動を行っているが、コロナ禍においてはやむを得ず中止したり、内容の変更を余儀なくされたりした園も多い。また、前回

の調査[7]では各園で独自に新型コロナウイルス感染症対策を考え実施しているため、対応には幅があることが示唆されたが、食事場面においては感染リスクの高さから、その取り組みの情報共有がより一層求められる。

そこで、本研究では2021年３月25日時点で東北の中でも抜きんでて感染者数が多く、独自の緊急事態宣言を発出していた宮城県と山形県の保育現場における食事場面での新型コロナウイルス感染症対策についてまとめた。

２．研究方法

日　　時：2021年５月10日～７月25日

対　　象：無作為に抽出した、山形県および宮城県内の保育所（園）84園、幼稚園52園、認定こども園60園、小規模保育施設60園（回収率21.1%）

方　　法：郵送およびメールにて調査協力を呼びかけ、無記名型記述式アンケートを実施し、回収はGoogleフォームを使用した。調査項目については巻末参照。

統計処理：統計処理には、Microsoft Office Excel2019を使用した。

倫理的配慮：調査対象には調査の趣旨を伝え、得られた結果は研究以外で使用しないことを保証し、厳重な管理のもと保管および使用した。

３．結果

(1) 日々の食事場面の感染症対策について

１）属性

今回調査に協力いただけた施設は図１のように認定こども園38.89%、保育所37.04%、幼稚園12.96%、小規模保育事業施設9.26%であった。

園児数については、図２のように60人以上120人未満が最も多く42.59%、次いで120人以上200人未満が27.78%、20人以上60人未満が18.52%、20人未満が7.41%、200人以上が3.70%と続いた。

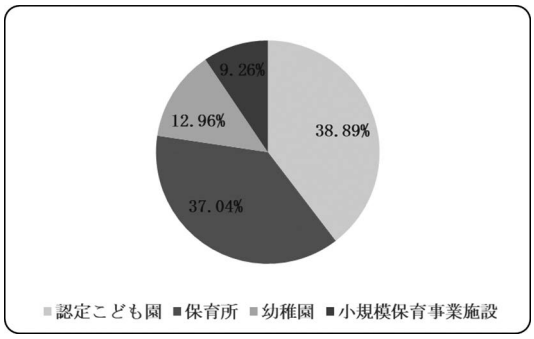


図１．所属施設について

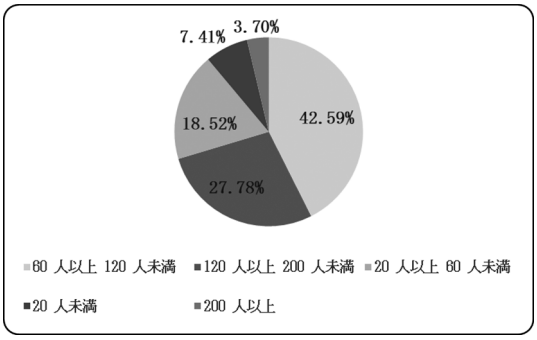


図２．園児数について

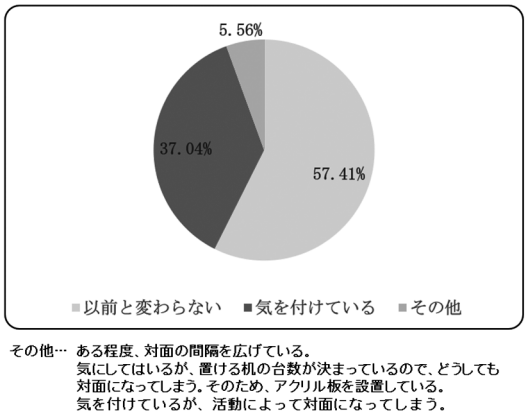


図３．座る位置

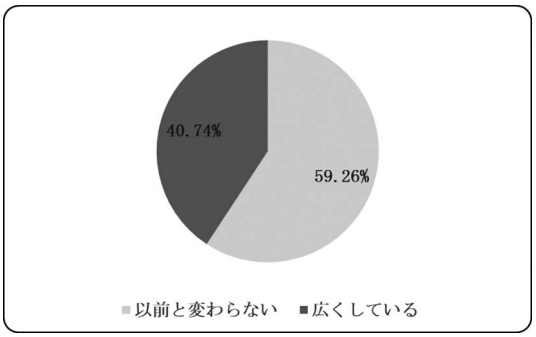
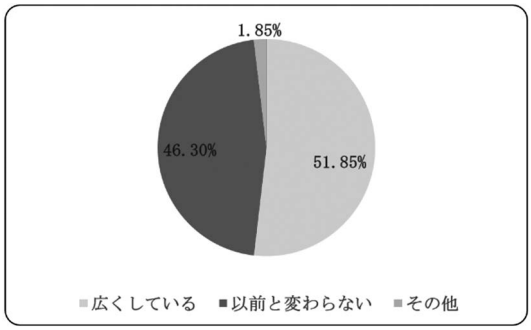


図４．座席の間隔

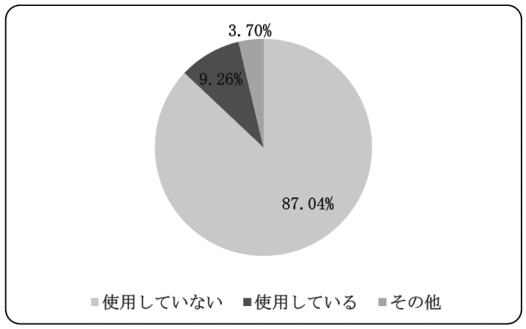
２）食事中の感染対策

子どもが座る位置に関しては図３の様に57.41%が以前と変わらないとの回答であった。また、座席の間



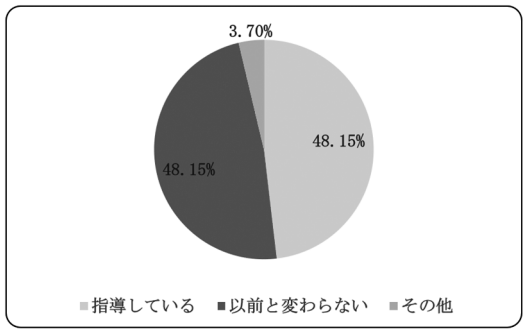
その他… 出来る限り広くしているが、部屋のスペースに限りがある。

図５．他のテーブルとの間隔



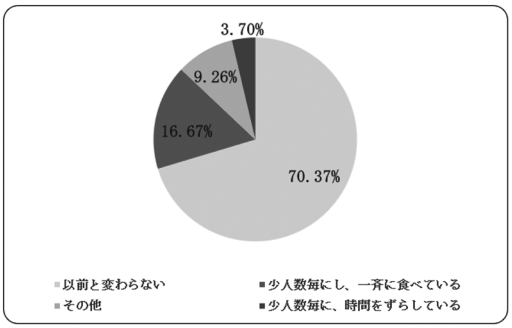
その他… 以上児は使用している。
未満児では使用していませんが、以上児はバイキング形式のため卓上パテーションか置いてあります。

図７．卓上パーテーションの使用



その他… 小学校のように前を向いて食事をとることは幼児にとって難しいことです。できるだけの感染防止対策をとりながらも、友達と楽しく食事をすることも子どもの育てには必要だと思います。
1歳児なので、あまり話すことはないです。

図９．食事中の子どものおしゃべり



その他… ランチルームで時間選択制（密を避けている結果になっている）
クラスごとに各保育室で食べている。行事の時の会食はしない。
なるべく向かい合わせにならないで食べる。
ゼロ歳児のため、上手に食べられる子、幼児食、離乳食(完了、後期、中期)と段階がそれぞれの子供にあるので早くにお腹がすく子供、上手に食べることができる子が先に食べ、お腹のすき具合が遅くても持つ子供などはあとに食べるなど最大でもひとテーブル3人、同時に食事をとるのは今はひとテーブル2人に保育者1名がついて3テーブルに別れて順番に食べています。
活動等で食事をする際は年齢で分けて食べるようにしている。

図６．食事の人数や時間

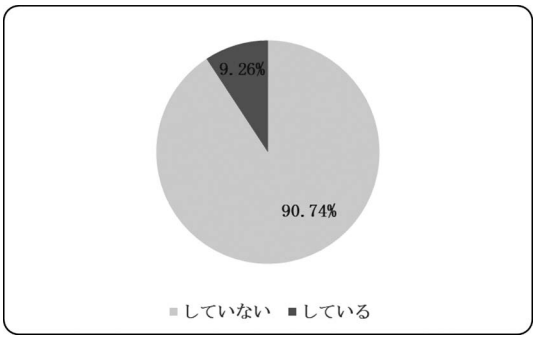
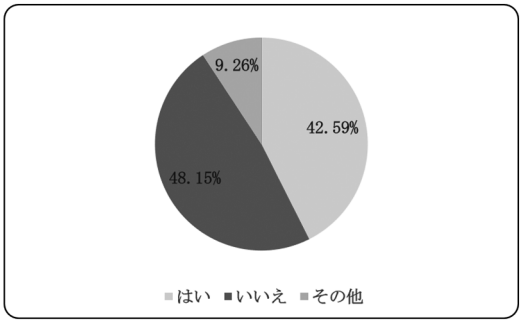


図８．食事の際の屋外の利用



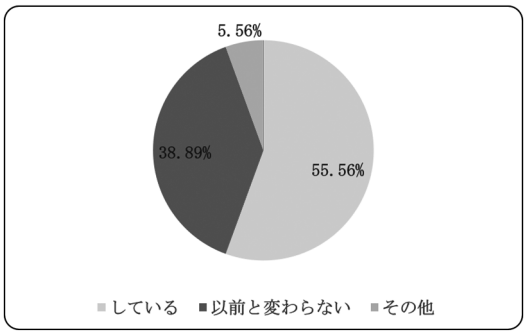
その他… テーブルは別にしている。
年齢による。
従来は、子どもと同じテーブルで食べていた保育者ですが、今は同じ保育室の中で少し離れて食事をとっています。
0,1歳児は別。他は一緒。
ゼロ歳児は一緒に食べる余裕はまだないため保育者は休憩時間ないで順番に休憩室で食べています。1歳児から上の子供の担任は子供と一緒に食べています。

図10．食事中の保育者の同席

隔についても図４の様に59.26％が以前と変わらない状況で、位置や間隔については半数以上の園がコロナ禍でも特に変更はしていないようである。一方、テーブルとテーブルの間隔については図５の様に以前と変わらないという回答は46.30％と半数を切った。

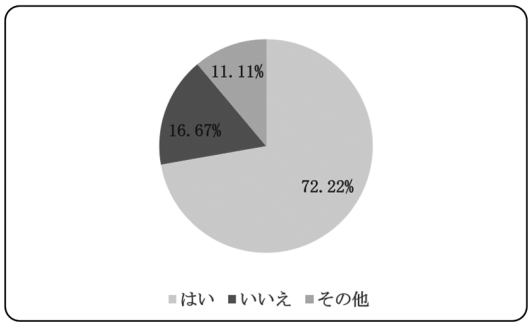
食事の人数や時間は図６の様に70.37％が以前と変わらないと回答した。また、卓上パーテーションは図７の様に87.04％が使用しておらず、屋外での食事も図８の様に90.74％がしていないと回答した。

食事中の子どものおしゃべりについては図９の様に指導している、以前と変わらないが同じ割合となった。食事中の保育者の同席についても図10の様にしてい



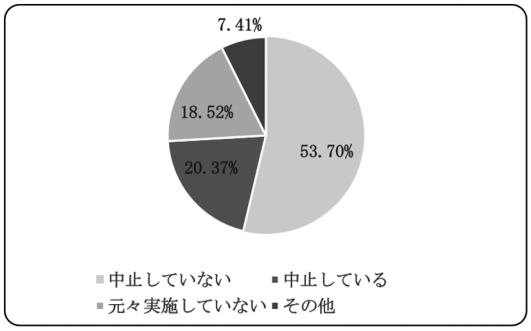
その他… 可能な限り、食事のマナーに対する声がけのみ。
子どもの食事の介助の際は以前と変わらないが休憩中の食事の際は黙食を心掛けている。
必要なことだけ話すようにしている。

図11．食事中に保育者はできる限りしゃべらない



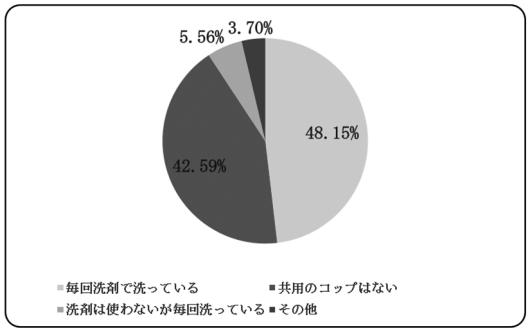
その他… 食べる時以外は着用している。
同じ時間に食事をしている為、食べている時は外している。
食事中以外は着用している。
保育者は、子どもたちより早く食べ終わったらすぐにマスクを着用しています。
水分補給時以外はマスク着用。
基本はつけていますがまだ噛むことが上手では無い子供もいるためその際口元を見せるため一時的に外しますが基本つけています。

図12．食事の際の保育者のマスク着用



その他… フェイスガードとマスク着用でしている。
月齢に合わせて2歳児のみうがい。
一歳なのでしない。歯磨きの代わりにお茶を飲む。
0から2歳はしない。3から5はうがいだけする。

図13．食後の歯磨き



その他… 1回ごとに洗剤で洗い、消毒保管庫で熱消毒している。
給食室から出るコップは毎回洗っているが、個人のコップは洗っていない。

図14．共有コップの洗い方

る、していないほぼ同等の結果となった。食事中に保育者はできる限りしゃべらないに関しては、図11の様にしゃべらないようにしているが55.56％と半数を超えた。また、食事中の保育者のマスク着用は図12から72.22％していることがわかる。

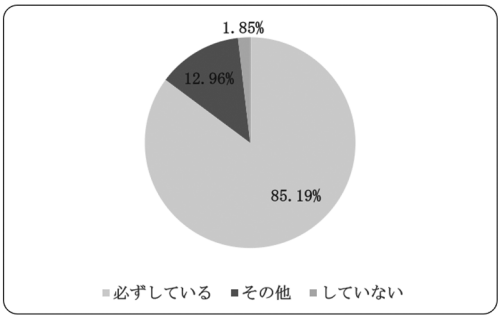
３）食事前後の感染対策

食後の歯磨きについては図13の様に中止したところは少なく、中止していない、元々実施していないを合わせると72.22％と特に変更したところは少ない。共有コップの洗い方はそもそも共有のコップがない園も多く、すべての園で対策が実施されていた。食事前後の手洗いは図15の様に85.19％が必ずしていると回答した。また、手拭き用使い捨てペーパーの導入も図16の様に92.59％と高い値となった。給食当番については、図17の様に中止している、中止していないは同じような割合となったが、元々当番がなかったり、部分的な実施にとどめていたりする園もあった。さらに配膳や配食は保育者が行っている園が多く、図18の様に79.63％となった。保育者が食事介助時に身につけているエプロンはその都度交換するという回答が多く、図19の様に64.81％となった。

４）食育と感染予防の比重

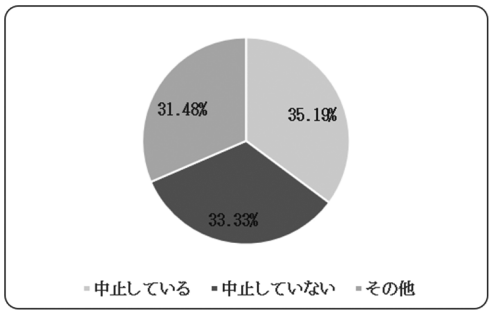
世間や園の状況、行おうとしている活動によりその都度判断せざるを得ないが、今回の調査では図20の様にコロナ禍において感染予防に比重を置いている園が３分の２を占めた。

以下、日々の食事場面については、平常時においても摂食の発育発達過程の違いから保育者の支援・援助に違いがあるため、３歳未満児と３歳以上児、気になる子、配慮が必要な子に分けて質問し、コロナ禍での食育活動、食事や食育に関しての心配、不安、考え等については、特に分けて質問せず大要を把握することを目的にまとめている。



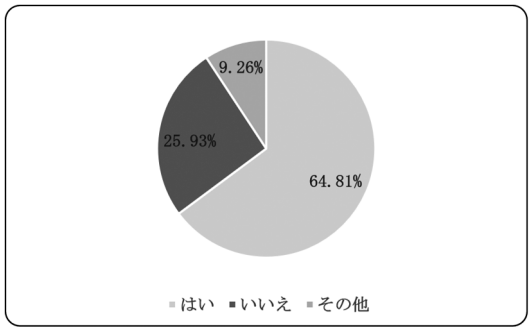
その他… 手洗いの歌を歌いながら、以前より長く洗っている。
食事前のみ必ず行っている。
子どもは消毒をしてます。
食事前のみしている。
月例によってできることが変わってくるため高月齢の子供で手洗い出来る子は順番に今手洗いの練習をしているところです。
食前は手洗いまたはおしぼりで手を拭き、食後はあまりにも汚れが酷いなどの場合は手洗いをしますが基本はおしぼりで吹いています。
子どもは手口拭きで拭いてる。
子どもは食前のみ手洗いを行っている。

図15．食事前後の手洗い



その他… 配膳は以前から職員がしている。挨拶は子どもと一緒にしている。
当番はない。
感染が流行った時期は実施。現在は一部再開している。
挨拶のみ子どもが実施。
当番は導入せず。
給食当番はやっていない。
4・5歳児は、自分の配膳、2歳以上では子どもが食事前後の挨拶。
元々行っていない。
挨拶のみ実施している。
実施していない。
未満児なので給食当番を行っていない。
当番を設けていない。
挨拶、配膳（お皿に乗った給食を自分の机まで運ぶ）は子どもが行う。
なし
行っていない。
保育者が準備しています。
給食がないため行っていない。

図17．給食当番



その他… 食事支援はしない。
個人用の給食用エプロンを使用し、一日使ったら洗濯します。
午前おやつ(牛乳のみ)昼食は同じエプロン使用。午後おやつは別のエプロン使用。
未満児はエプロン変えてるが、以上児はそのまま。
給食がないため行っていない。

図19．保育者の食事介助用エプロンはその都度交換するか

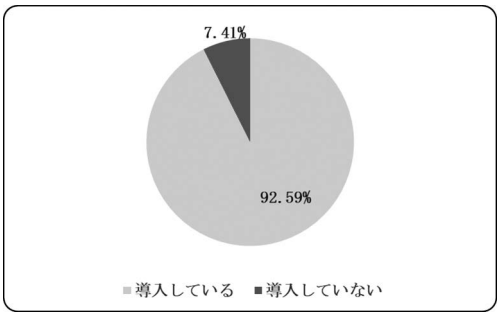
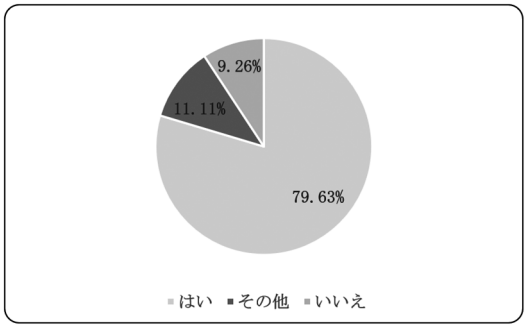


図16．手拭き用使い捨てペーパーの導入



その他… 3歳未満保育部は、保育者が行っています。
保育者と栄養士が行っている
お弁当持参です。
皿に盛り付けるのは調理士、栄養士
給食がないため行っていない。
3歳児までは保育者が行う

図18．配膳や配食は保育者が行っている

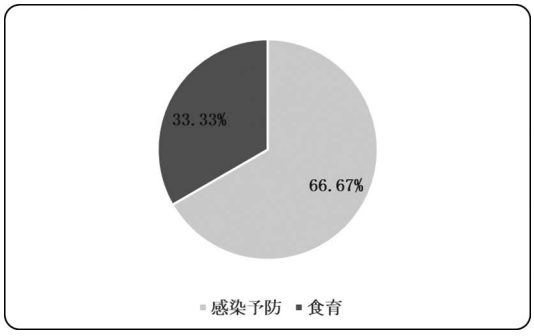


図20．食育と感染予防の比重

表１．日々の食事場面で配慮・工夫していること

３歳以上児	３歳未満児
共通する基本的な感染症対策	
・消毒（手指・テーブル・椅子） ・換気 ・子どもの間隔を空ける（他の子どもの食材や食具に触れないように） ・食事時間をずらし密にならいないように時間の使い方を工夫 ・パーテーションの設置	
独自の感染症対策	
・食事前後のマスクの着用	
具体的実践例	
・可能な限り対面にならないようにしている ・机と机を出来るだけ離す ・対面をなるべく避け、全員同じ方向を向き食事を行う ・子ども同士の話は出来るだけ控えるように指導 ・子どもが配食をする際は、事前に手指消毒を実施 ・１つの机に座る子どもの数を減らしている ・配食配膳は保育者が行う ・天気の良い日はテラス、戸外で食事をとる ・話さない	・噛み方を伝えるときなどはフェイスシールドを使用する ・保育者は子どもと一緒に食べないようにしている ・マスクをつけたまま食事の介助を行う為、口の動きが見せられない分、もぐもぐと声に出して介助を行う ・テーブル、椅子などの消毒の徹底
食育について	
・出来るだけ、いつも通りであることが、不安にならないのではないかと思う、怖い、怖いと言うと不安になりがちなので、不安にさせないようにしている ・できるだけの感染防止対策をしながらも、一緒に食べる人がいる楽しい食事、たくさんの食材に興味を持つ食事、お腹の空くリズムを持てる活動などを行いながら、食事場面を大切に捉えている・マナーと共にコロナ禍での食事のとり方を伝え、考える機会を持つ。手洗い指導などを徹底する	・コロナ対応をいたずらに食事場面だけに適応しない、保育を行う上では最優先は保育としている ・感染防止を第一に考え、その中でも食事を通して子どもたちに伝えていきたいことを職員間で話し合い食育活動へとつなげている ・子どもへの強制はせず、楽しい雰囲気を大切にしている、以前と変わらない環境で行っている ・子どもたちには楽しい雰囲気のもと食事をして欲しいため、制限をしたことは殆どない、食事中に唾を飛ばしてしまう、話に夢中になりすぎている等以外は基本的に制止しない

表１日々の食事場面で配慮・工夫していることについて、３歳未満児と３歳以上児で、消毒、換気、広い間隔の確保等の基本的な感染症対策に大きな差異はないことが伺えた。また、３歳未満児の食事場面における感染症対策としては、保育者が気を付けなければならない内容であったのに対し、３歳以上児の場合は、食事前後のマスクの着用や食事中は話さない等、子ども自身にも何らかの行動を求めているようであった。また、気になる子、配慮が必要な子だからといって感染症対策として特別な配慮を行っている様子はなかった。

表２にコロナ禍で行った食育活動についてまとめた。日々の食育活動はもちろんのこと、調理保育や栽培などを実施している園が見られた。どの園もコロナ禍以前のように実施するのではなく、現在の社会情勢に合わせ、感染症対策を講じながら実施しているのがわかる。

中でも回答の多かった餅つき、餅つき以外の調理保育、野菜の栽培については配慮を図21に示した。基本的な感染症対策以外に各活動で特徴的だったのは、収穫した野菜や搗いた餅を食す以外で使用することや、作業用と喫食用の食材を別にする、収穫した野菜は家庭に持ち帰る等の工夫が挙げられる。

表２．コロナ禍での食育活動

調理保育（25）	栽培・収穫（12）	その他
・餅つき（7） ・たけのこの皮むき ・芋煮の下ごしらえ ・よもぎだんごづくり ・サンドイッチ作り ・すいとん作り ・簡単ピザ作り ・クッキー作り ・フルーツジャムサンド作り ・昼食の下ごしらえ ・味噌作り ・梅干し作り ・その他調理保育（7）	・野菜の栽培（10） ・サツマイモ掘り ・田植え、稲刈り	・寒天遊び ・手洗い指導 ・読み聞かせ ・収穫祭
感染症対策		
・手指消毒の徹底 ・事前の手洗い ・マスクの着用 ・換気をしながら広いホールで実施 ・使用調理器具の消毒 ・テーブルの間隔を空けて実施 ・各自の野菜等を用意し、複数の子どもの手が触れないようにする ・子どもがむいたたけのこは給食には提供しない ・クラスを２グループに分けて少人数で実施 ・食材に直接触れるだんごを丸める活動は行わない（給食室でだんごを丸める） ・加熱殺菌を十分に行う ・野菜等を切るところは広いホールなどをつかって、火を使った調理は園庭でかまどを購入して行う ・ついた餅は食べず鏡餅にして各クラスに飾る、喫食用は、別に給食室で調理 ・餅はついたものではなくお店から購入したものを使用 ・杵とうすのみ使用し、餅つきについて学ぶ	・外の広い場所で実施 ・少人数での水やり ・田植えの際の子どもの間隔を広くする ・バスに乗る際の手指消毒、バス内消毒、活動時間の短縮 ・収穫後の野菜は、スタンプ遊びに利用したり、保育園では調理等はせず各家庭に持ち帰りをしてもらう	・園の管理栄養士による手洗いの大切さを図や手洗いチェッカーを使用し実感する
保護者への周知など		
・入園の際食育について説明し食育活動への理解を得ている ・おたより・クラスボードなどによる周知、活動実施後写真掲示 ・１クラス毎実施後にブログで文章・写真で知らせる ・保育内容を伝えるアプリを使い写真などによって保護者には伝えているが特に意見等頂いていない ・食育活動を行う際には保護者の方に活動内容を伝え同意書をいただく		

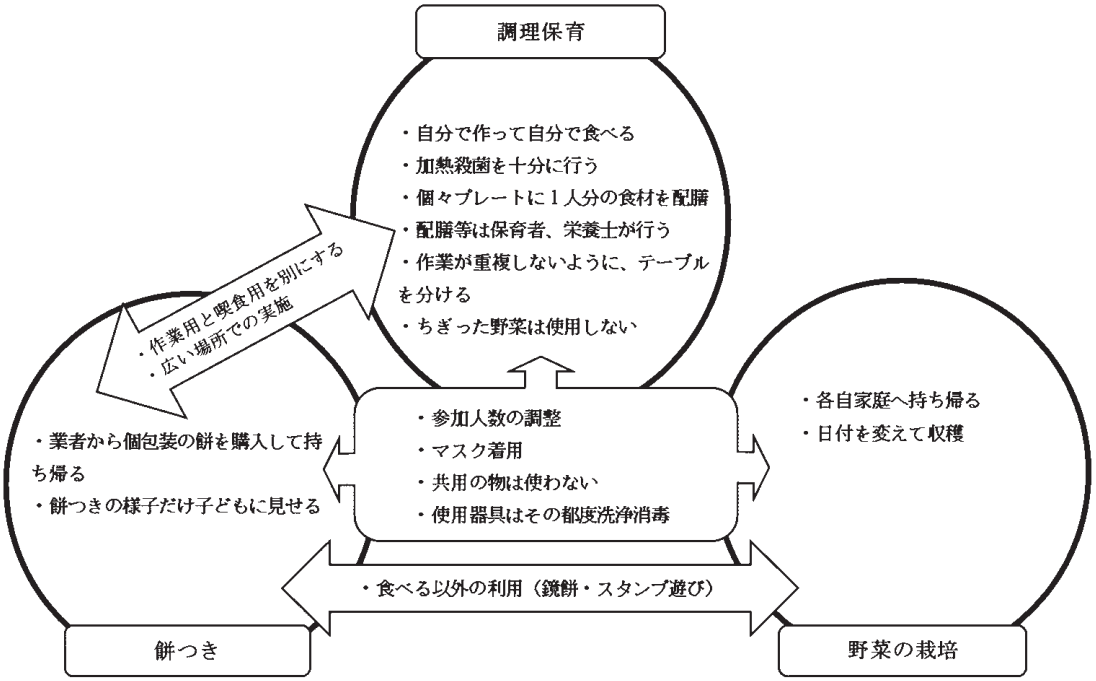


図21．食育活動時の配慮

(2) 食事や食育に関しての心配、不安、考え等について

表３の食事や食育に関しての心配、不安、考えについては最も多かったのは「感染症対策の曖昧さ」である。どれだけ感染対策を講じても安心できない、具体的な指標が欲しいなどの意見があった。また、黙食指導の難しさについても複数あげられており、「子どもに感染症対策を求める難しさ」を感じている姿や、子どもが食事を楽しいと感じられているのか心配している様子があった。

４．考察

(1) 日々の食事場面の感染症対策について

未満児、以上児とも基本的な消毒等は実施している様子である。しかし、以上児になると、食事前後のマスクの着用や対面にならないような環境設定、さらには話さない等、子どもにも感染症対策に繋がる行動を求めている様子が伺えた。このことから、未満児に対しては、子どもに直接感染症対策に繋がる行動を求めるのではなく、保育者が子どもを取り巻く物的・人的環境に対して感染症対策の働きかけをしており、以上児になると、保育者が環境に働きかけるのみではなく、子ども自身に感染症対策に繋がる行動を求めるということが垣間見える。なお、気になる子、配慮が必要な子への感染症対策は、他の子ども同様の対策であり、特別に講じている対策は無いようである。

また、「楽しく食べること」と「感染症対策」の両立は難しく、その間で様々な考えが生まれ、園ごとの対応に幅が生まれている。

(2) 食事や食育に関しての心配、不安、考え等について

食事や食育に関しての心配、不安、考えについては最も多かったのは、どれだけ感染対策を講じても安心できない、具体的な指標が欲しいなどの「感染症対策の曖昧さ」であった。その中で保育者は、子どもに黙食を求める難しさといった「子どもに感染症対策を求める難しさ」を感じている一方で、子どもが食事を楽しいと感じられているのか心配している様子があり「子どもの育ちに対する不安」を感じている。この、感染症対策と子どもの育ちのバランスを含め、常に感染症対策を考えながらの保育になっていることで「職員の負担」が大きくなっている。さらには、その職員も研修が中止になり情報交換ができないことなどからも、感染症対策を各園独自で取らなければならなくなっており、各園での感染症対策と食育活動のバランスを考える時間が増えているのであろう。

これらから、本調査のように各園の感染症対策などの情報を集め、共有するということが、単に感染症対策のみならず、保育現場の職員のより保育へ向き合う時間と余裕を形成することが期待できる。

表３．食事や食育に関しての心配、不安、考え等（自由記述）

食べているときの会話が感染リスクが高いので、そこを気をつけている。職員室での飲食にも気をつけている。
体調の優れない子どもがいる時に、一緒に食事をとらせていいのか？　悩みます。
感染防止。
食育活動をしていくにあたって、どこまでの範囲が可能なのか具体的に指標があると助かる（例えば、園児が触ったものはokなのか、加熱をすればokなのか等）。
園児各々が対策をするには限界があるため今後も対策は必要だがスタッフの負担も大きいのが現実問題。
年長児に配膳を行わせていない期間が長いので、就学の際に子ども達が困らないように、年度後半からは入れていきたい。
未満児施設なので、どこまでどう実施ができるか分からない。他の実践ケースを参考に、手探りながらも実施している状況。
どこまで制限をかけてどこからが大丈夫なのかの線引きが難しい。
黙食は、子供にみんなで食事をする楽しさが味わわせることができない。
問20について：比重を選ぶことは難しいため、状況によって比重は変わります。
感染陽性者が園児に出た場合、常に一緒に食事をせざる負えない子ども達が濃厚接触者となってしまう。また、クラスターとなる可能性も高いと感じているので、どこまで予防できるのか不安だ。
幼児に黙食は難しいので、席の間隔をもっとあけるべきか迷っている（机の購入や、収納する場所の確保、また、消毒にかかる時間や人員などさまざまな検討事項がある）。アクリル板はあるけれども、子どもたちはどうしてもおしゃべりしてしまうので不安。
友だちや保育教諭と楽しく話をしながら食事をするという体験をさせてあげられず、食事は楽しいものということを子どもたちが感じにくい現状である。食育活動も今まで通りにできず、食への興味や関心を深めることが不十分になるのではと不安を感じている。
コロナ感染。
コロナだから、できないのではなく、感染症対策をしながら、何ができるのか、考え、取り組むことが、必要だと思う。
感染対策をどこまでしたらよいのかが悩ましい。
子どもたちが楽しく食事をする中で、離れる話さないなどの指導は難しく、感染症の観点からみる事柄とどちらに重きを置かなければならないのか日々葛藤をしている。
また、特に0歳児の食事介助では口元の動きが重要でマスクをしながらでは、適切な支援が行えず今後の咀嚼などの発達に不安が募る。
感染予防をどこまですると安心できるのか。
親子クッキング等親子参加行事が開催できなくなってしまったこと。
食育活動でもクラス合同の会食等出来なくなってしまったこと。
研修が中止になり情報交換が出来なくなってしまったこと。
出来るだけ子ども達の負担になるような事はしたくないと考えている。感染防止にばかり気を取られて子ども達の育ちや楽しみを無くさないように考えていきたい。
感染症対策を考えながらだとどうしても活動が億劫になりがち。
今、実施していることで、感染予防として十分であるかどうか？
食事の場面における感染リスクは高まります。しかし、食育活動は子どもたちの育ちにとって必要なことだとも思います。小さな子どもの命を預かりながらの保育は、私たち保育者も全力の命がけの仕事だとしみじみ思いながら、難しい場面の悩む活動でもあります。
経験する機会が減ってしまうことが心配。安全対策は第一優先だが、その中で出来ることを模索していく。
未満児の為、自由に行動してしまい徹底した対策が難しい。
今のところ大丈夫です。
アンケートを受けて、対策を殆ど行っていない事に気づいたので少し不安になった。
未満児クラスではモグモグと口を動かして食べたり、あーんと口を開ける動きなどがマスクで遮断される為、食事の際の子どもにとっての学びが得られないことが心配である。
初めてみる料理を食べたがらない子どもが多く見られるのでそのような子どもたちがどうしたら安心して昼食を食べられるようになるかが心配です。

(3)「楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針～」からこの考察

2004年に厚生労働省から通知された「楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針～」[2)]では保育所における食育の目標が記載されており、具体的な目指すべき子どもの姿や、それを実現するための食育の５つのねらいと内容がまとめられている。以下、その５つのねらいと内容を観点に考察を進める。

１）食と健康について

子どもは楽しく、思い切り遊ぶことで、空腹感を感じるものだが、コロナ禍においては運動遊びにも制限があり、十分な運動量を確保できているかは疑問である。当然それに伴い、昼食時に正常に空腹感を感じている子は平時に比べ少ない可能性はあるが、今回の調査は食事場面の配慮についてのみであるため、憶測の域を出ない。

２）食と人間関係について

本来は、誰かと一緒に食べたり、食事の話題を共有したりすることが、人との関わりを広げ、愛情や信頼感を育むが、このコロナ禍においては非常に難しい状況であると言わざるを得ない。

WHOがCOVID-19はパンデミックに至っていると認識を示して以降、全国の保育・教育施設において黙食や卓上パーテーションの使用や少人数でのテーブル使用、対面にならないよう横並びで座ったり、斜め向かいに座って食事をしたりと園によって様々な感染対策を講じている。

しかし、今回の調査においては卓上パーテーションの使用や、屋外での食事を対策として実施している園はごくわずかであった。卓上パーテーションについては日常生活に違和感が出ることや、そもそも効果に対して懐疑的な見方をしている可能性がある。また、屋外が少ない理由としては、各園の園庭やテラスの有無、他クラスの使用状況から、利用が難しいことが考えられる。

また、園内で黙食を実施しているという現状を鑑みると、地域のお年寄りやボランティアの方等、様々な人と食べる機会も大幅に減少していると予測される。本調査においては、子どもが様々な人と一緒に食べることの大切さを認識してはいるものの、感染症対策の観点からそれを実施することが難しい保育者の葛藤が表れていた。

３）食と文化について

この項目では、旬の食材から季節感を感じたり、郷土料理に触れ、伝統的な日本特有の食事を体験したりすること等が大切とされている。

コロナ禍において様々な行事の中止や縮小を余儀なくされているが、今回の調査では実施した食育活動として複数の園から挙げられたのが餅つきである。

そもそも日本は古くから稲作が盛んであり、餅つきの歴史も長く、行事食としても定着している。現在は家庭で体験できる子は少なく、食育活動として多くの園で取り入れているが、コロナ禍においても他の食育活動より実践できたのは１つ目として屋外で行うことができるということが挙げられる。室内の活動とは違い、密閉空間にならないため感染リスクの軽減が見込めるからである。２つ目として、食材に直接触れないことが挙げられる。実際に触るのは臼と杵であり、園児一人が使用するごとにその消毒を行い、餅の整形に関しては調理室で調理員や委託業者が行う事でかなり感染リスクを減らすことができるであろう。３つ目は出来上がった餅は食べる以外に飾るという用途があることである。通常の調理保育は喫食が前提であるが、餅つきの場合はお正月の鏡餅やひな祭りの菱餅など、喫食の回避が可能であり、食材を廃棄せずに済むからである。

一方、宮城県や山形県の食の文化である芋煮に関してはほとんど回答がなかった。やはり調理や喫食については感染リスクが懸念されるため、断念したと思われる。皆で作ったとしても、食べることができなければ食材は無駄になり、それこそ食育とはかけ離れた活動となってしまうため、そもそも実施しない判断をすることは必然である。しかし、地域の料理・文化などを知る機会を作るために、芋煮は中止してしまうには非常に惜しい活動である。宮城県、山形県のお互いの地域の芋煮の味付けや食材の特徴等を知ることで、より自分の地域の食の文化を認識することに繋がる。今後はお互いの地域をオンラインで繋ぎ、そこで各地域の郷土料理を紹介したり、違う地域の芋煮を食べて、感想を伝えあったりする等といった共同的な新しい食育活動の実践を模索していく必要があるだろう。

４）いのちの育ちと食について

飼育に関しては今回の調査の対象としなかったが、野菜の栽培、収穫に関しては取り組んでいる園が多かった。

食への興味、関心を高め、自ら進んで食べようとする気持ちを育てるために、野菜栽培は各園で欠かせない食育活動であるが、このコロナ禍においては栽培、収穫はできても調理や喫食についてはためらう園が多く、遊びの材料（スタンプ）として使用している園や、

園では食べず、家庭に持ち帰るという工夫が見られた。

活動が中途半端になってしまう事への無念さやリスクマネジメントとしていたしかたないという気持ちの中で、妥協しながらも最大限子どものために創意工夫しているのであろう。

５）料理と食について

食べる意欲の基礎をつくり、食の体験を広げる乳幼児期に料理をしたり、その一端を担う経験をしたりするのは非常に重要であるが、調理するのはもちろん、盛りつけや配膳を手伝ったり、生産者と会ったりするという以前なら当たり前にできていたことが容易ではなくなっている。今回の調査においては、日々の保育の中で、片付け等は行っているであろう様子が見られる一方、配食や配膳に関しては多くの園で保育者が行っていた。給食当番に関しても中止をしたり、一部制限を設けていたりする配慮がみられた。また、調理保育時は、自分の食べる分だけ調理することや調理の下ごしらえのみで、後は給食室で仕上げたり、子どもの目が届かないところで購入したものと交換し、使用したりするなどして子どもの調理体験の場の確保につなげていた。

総じて、５つのねらいと内容に対して、保育現場はどのような配慮や方法を取れば、安心、安全かつ食育として意義のあるものになるかを活動のたびに世間の状況を鑑みながら感染対策を検討している。しかし、子どもの健全な成長に必要な食育活動実施のための判断基準は、園によって大きく異なり、今なお各園で試行錯誤しているのが実情である。

５．まとめ

乳幼児期の食事は、子どもが健康で充実した生活を送るための礎であり、その後の心身の成長にも大きな影響を与えるが、コロナ禍においては唾液など分泌物が飛びやすいため、飛沫感染のリスクが高く、食育の機会の減少が懸念されている。このような状況から、今回の調査においても、新型コロナウイルス感染症対策を行いながらの食事の配慮や食育にかなり苦慮していることが浮き彫りとなった。

家庭以外での食の体験を広げることができなくなっている現在、保育所における食育の役割はこれまで以上に大きな意味を持つ。昼食やおやつ等は、栄養素を補給するだけではなく、生活様式や文化を伝える場面でもある。保育者の言葉かけ等の関わり方で園児や保護者は影響を受け、食育が進んでいく。地域の食文化、行事食等、給食として提供している食事やその時の関わりは、「食育」そのものであるが、今回のコロナ禍で私たちの生活や暮らし方は一変した。それでも乳幼児期の食事や食育の重要性が変わるものではなく、保育現場ではこの様な変化にも対応しながら食育を実施していく必要がある。

そこで、日々の食事や食育の実施方法として、基本的な感染症対策はもちろんのこと、以下の３つを提案したい。

①「Individual」

子どもが使用する食具や調理器具は一人ひとり別の物を用意したり、自分で調理したものを喫食したりする。

②「Change」

調理の下処理後、子どもが実際に下処理したものではなく、事前に購入したものや給食室で調理したものと交換して食べる。尚、子どもが個別に下処理したものは、各家庭に持ち帰る、コンポストして活用する、保育教材として野菜スタンプや染料として使用すること等、廃棄食材をできる限り減らす努力が求められる。

③「Shift」

活動は少人数のグループを入れ替えながら行う、対面にならないよう子どもの作業場所や喫食時の位置をずらす、グループ毎の活動時間をずらす。

新型コロナウイルスを含む感染症対策の基本は「手洗い」や「マスクの着用を含む咳エチケット」であるが、それに加えて「Individual」、「Change」、「Shift」の確認を行う事で少しでも安心、安全な食事、食育、職員の負担軽減の一助となることを期待したい。

新型コロナウイルス感染症の現状は、いまだに目まぐるしく状況が変化しており、国や自治体の方針もそれに伴って変更されている。したがって、現場では信頼出来る情報源から新型コロナウイルス感染症に関する最新の情報を常に得る努力が求められる。また、各園で様々な感染症対策を実践しているが、１つの園で完結ないし、判断をするのではなく、最善の対策に近づくためにも様々な園の取り組み（グッドプラクティス）を共有し、自分達だけでは考えられなかったより良い対策を積み重ねていくことが今後も重要となるであろう。

引用文献

1）Johns Hopkins University：COVID-19 Dashboard by the Center for Systems Science and Engineering（CSSE）at Johns Hopkins University（JHU）https://gisanddata.maps.arcgis.com/apps/opsdashboard/index.html#/bda7594740fd40299423467b48e9ecf6

２）厚生労働省．楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針～．2004
３）食育基本法．2005
４）フレーベル館：幼稚園教育要領．2017
５）フレーベル館：保育所保育指針．2017
６）フレーベル館：幼保連携型認定こども園教育・保育要領．2017
７）小田幹雄．橋浦孝明：宮城県仙台市における保育現場の新型コロナウイルス感染症対策の現状について（第１報）．羽陽学園短期大学紀要第11巻第３号．2020．pp.187～204

新型コロナウイルス感染症影響下における食事等の配慮について

所属施設
保育所・幼稚園・認定こども園・その他

施設の規模
11名未満・20 人未満 ・20 人以上 60 人未満・60 人以上 120 人未満・120 人以上 200 人未満 ・200 人以上

食事について（回答は２択および３択となっております。）

1. 対面にならないよう座る位置に気を付けている
2. 隣の子どもとの間隔を広くしている
3. 他のテーブルとの間隔を広くしている
4. 園・クラスで一斉に食べず、少人数毎や時間をずらして食べている
5. 卓上パーテーションを使用している
6. 天候や気温により、できる限りテラスや外で食べるようにしている
7. 食事中、子どもにおしゃべりは控えめにするよう指導している
8. 保育者は子どもと一緒に食事をしている
9. 食事中、保育者はできる限りしゃべらないようにしている
10. 子どもの食事中、保育者はマスクを着用している
11. 飛沫防止のため、食後の歯磨きを中止している
12. 共有のコップを使用後は毎回洗剤で洗っている
13. 子どもも保育者も食事前はもちろん食後も必ず手洗いをしている
14. 手を拭くための使い捨てペーパーを導入した。（元から導入している場合を含む）
15. 給食当番（園児が配膳・配食・挨拶等）は中止している
16. 配膳や配食は保育者が行っている
17. 保育者が食事介助に使うエプロンはその都度交換している
18. コロナ禍において、食育と感染予防どちらに比重を置くべきだと思いますか

Q.未満児の食事場面で配慮・工夫していることについて自由にご記入ください。

Q.以上児の食事場面で配慮・工夫していることについて自由にご記入ください。

Q.気になる子、配慮が必要な子の食事場面で配慮・工夫していることについて自由にご記入ください。

Q. 新型コロナウイルス感染症対策をしながらの食育活動として、貴園ではどの様な活動を行いましたか。記入例に従って、活動名、その活動で実施した感染対策、保護者への周知方法や活動に対する保護者の反応についてお答えください。（複数挙げていただけるとありがたいです。）

【記入例 1】
〈調理保育〉
・餅つき大会
〈新型コロナウイルス感染症対策〉
・風通しの良いテラスで実施
・参加園児は手指消毒及びマスクを着用
・杵は園児が交代する度に消毒
・ついた餅の調理や配膳は調理師及び保育者が行う
〈保護者への周知や活動に対する反応等〉
・お便りによる周知や事前アンケート（参加/不参加）による同意
・様々な行事が中止になる中、季節感の感じられる行事を開催してくれて嬉しい
・餅をつくのは体験させたいが食べることは遠慮したい

【記入例 2】
〈栽培活動〉
・米作り
〈新型コロナウイルス感染症対策〉
・一度に田んぼに入る人数を制限
・田植えの際の園児の間隔を広くする
・お世話になった農家の方をお招きしての収穫祭の中止
・園での調理は行わず、精米した米を持って帰る
〈保護者への周知や活動に対する反応等〉
・お便りによる周知や事前アンケート（参加/不参加）による同意
・みんなで食べる機会が失われたことは残念
・マスクを着用させてほしかった
・地域とつながる活動は貴重なので他にも実施してほしい

Q. 食事や食育に関して、心配なこと不安なこと、お考え等をご自由にご記入ください。

今回は食事や食育の配慮についてご協力いただきましたが、保育携わるにあたり、他園とどのような情報を共有したいですか。